

# 特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

## 目的

課題を踏まえ設定した目的  
 保健福祉部局、教育委員会部局でバラバラに行っていた特別な支援を必要とする子供の発達相談や検査、就学相談(乳幼児検診の発達相談、保育所幼稚園小学校の巡回相談、中学校のスクールカウンセラーの指導)等を一本化し、こども若者サポートセンターで一元化して管理する。早期発達支援コーディネーターと就労支援コーディネーターが中心となり、各ライフステージに合わせた継続した横の支援体制と、部局をまたいだ縦の支援体制を確立する。



## 成果

- ①得られた成果  
 「個別教育支援計画」「個別指導計画」「引き継ぎシート」「個人ファイル」、保護者が子供の成長発達が確認でき支援機関が網羅された「サポートブック」を作成し、運営普及に取り組んだ。  
 関係機関と連携し、幼少期から学齢期終了後、社会生活における不適応まで継続した支援体制を構築した。
- ②成果を踏まえた今後の取り組み  
 就労支援コーディネーターを中心に高校訪問等を実施し連携を強化する。  
 乳幼児から学童期までの切れ目ない療育システム・発達フォローシステムの構築を実施する。

## 事業内容

妊娠期から概ね40歳までの困難を有する方を支援するこども・若者サポートセンターが核となり縦と横のネットワークの構築に取り組んだ。

- ①子ども若者支援協議会障がい支援部会を通して関係する機関連携の体制整備に取り組んだ。
- ②早期発達支援コーディネーターが校園所で「個別の教育支援計画」作成に関する研修会を実施し、校園所を超えて「個別の教育支援計画」の理解を深めた。また乳幼児健査から発達相談や療育教室、校園所での個別の教育支援計画をまとめるサポートブック「かつらぎつながるブック」を支援者が保護者とともに作成し、縦のネットワークの構築に取り組んだ。
- ③連携支援コーディネーターとして乳幼児期と義務教育期をつなぐために早期発達支援コーディネーターを、義務教育期と義務教育終了後をつなぐために就労支援コーディネーターを設置し、切れ目のない支援体制の構築に取り組んだ。
- ④インクルーシブ教育研修会の実施、親の会の立ち上げを通して地域での啓発に努めた。

